

## 平成24年度光市高齢者保健福祉計画等策定市民協議会

光市高齢者保健福祉計画等策定市民協議会

会長 西川 公博

- 1 開催日時 平成25年3月14日(木) 15:30～16:30
- 2 開催場所 総合福祉センター あいぱーく光 健診ホール
- 3 会議出席者 出席委員：西川会長はじめ13名(19名中)  
欠席委員：藤井正彦 鬼木泰子 大庭真理子 吉村孝宏 山下悦子  
藤山雅己  
事務局：前田福祉保健部長  
都野福祉保健部次長  
守山地域包括ケア調査担当次長  
中邑高齢者支援課長 瀬上地域包括支援担当課長  
田村介護保険係長 玉木高齢福祉係長  
志熊地域包括支援係長 讃井地域包括ケア調査担当係長  
坪井主査 松本主査 野村主任 轟主事(以上13名)
- 4 会議次第 別添資料のとおり
- 5 会議資料 別添協議会資料のとおり

## 1 委嘱状交付

## 2 会長あいさつ

皆さん、こんにちは。会長の西川でございます。本日は年度末にも関わらず、大変ご多忙のところご出席いただきまして、本当にありがとうございます。

また、日頃は保健福祉に関わる様々な分野からご協力、ご尽力を賜っておりますことを厚く御礼申し上げます。

まず始めに、先ほど委嘱状交付がございましたけれども、松村委員さんに代わり、本日から新たに平岡委員さんにご就任いただきました。先生、よろしくお願ひいたします。

さて、ご承知のように、昨年9月15日でしたが、敬老の日を迎えるにあたり総務省統計局は我が国の高齢者人口は3千万人を超えたというような発表がありました。高齢化率も23%を超えたということでございます。山口県の高齢化率は2015年には32%を超え、全国で3位になると予想されております。当市においても本日の資料にありますように、高齢化率は既に30%を超え、超高齢社会に突入しているわけでございます。

そのような中で、医療費の抑制のため、介護保険が適用される療養病床や医療の療養病床の削減によりまして、2014年、来年でございますけれども、介護難民といひますか、医療難民というような人が200万人とも180万人に上るとも言われております。

このような状況の中、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせる理想的な社会を構築するために、本市の高齢者保健福祉計画及び第5期介護保険事業計画が策定され、1年が経過しようとしております。この計画には3本の柱というものがございます。その1つは、高齢者保健福祉の推進と介護保険事業の運営のための法定計画であること。2つめは、10年後の本格的な超高齢社会を見据えた長期展望と地域包括ケアシステムの構築のための道筋を示すものであること。最後の3本目の柱は、その理想社会の実現に向けた第1段階における行動計画であること。この3つの柱を基に、この計画が作られているということでございます。高齢者の不安をできる限り解消するためにも、本計画の進捗状況に関心を持っていただき、委員のそれぞれの立場からのご意見をいただくことが協議会の役割だと思っております。どうか忌憚のないご意見、ご提言をお聞かせいただきたいと思っております。

なお、この市民協議会の終了後引き続き、地域密着型サービス運営委員会を開催することとしておりますので、よろしくお願ひいたします。簡単ではございますが、協議会開催にあたり、ご挨拶といたします。限られた時間ではございますが、最後までよろしくお願ひ申し上げます。

### 3 議事

#### (1) 光市高齢者保健福祉計画及び第5期介護保険事業計画の進捗状況について

##### ア 光市介護保険事業の進捗状況

会議資料 P.1~12 について事務局が説明

地域包括ケアシステム資料について事務局が説明

##### イ 光市高齢者福祉施策の進捗状況

会議資料 P.13~15 について事務局が説明

#### (2) 意見交換

(要旨)

平岡委員

地域包括ケアシステムの話ですが、先ほど別の会議でも話しましたが、アンケート調査を実施すると、在宅での診療を行うと言っている医療機関が約20ほどありますので、ケアマネジャーとの連絡を密に行うこと等により、地域包括ケアシステムの構築に向けた課題が1つずつ解決していけるのではないかと考えている。

また、1つの事例ではあるが、すい臓がんの方を看取ることがあり、その方は最後まで在宅で過ごされていた。その時に感じたのは、やはり、まずはその人の生活があって、その上に医療や看護、介護があるのではないかということである。その方は2人暮らしであったが、日中は独居であり、寂しいとも言っていた。そのような状況の方が増えることも想定されるので、医療、介護、周囲の方々の支援が一体となって切れ目なくつながっていることが必要であると思う。

また、医師会の中には志の高い先生も多く、協力していけると考えておりますので、医療という観点では、入院が必要となる患者に対して光総合病院や大和総合病院とも連携していきたいと思っている。

### 4 その他連絡事項

・なし